

人種問題をかかえる「超大国」

～『9・11 ジェネレーション』第2章を読んで～

2006年11月8日水曜日 社会学調査実習室5

LH18-4048H 豊留拓史

LH18-4055H 関原花穂里

LH18-4061C 石川美幸

目次

1. 『9・11 ジェネレーション』第2章の概要
2. 『9・11 ジェネレーション』第2章のキーワード
3. 『9・11 ジェネレーション』第2章を読んで
4. 参考文献

1. 『9・11 ジェネレーション』第2章の概要

アメリカは人種の多様性のある超大国である。そのため、「人種のるつぼ」などと呼ばれたりしている。しかし、そうはいうものの、現代でも差別や偏見による人種差別の問題や貧困問題を抱えている。とくに、人種問題はアメリカ人にとって身近な問題である。最近では、「逆差別」や「AA(積極的差別是正措置)」といった、新たな問題も出てきており、人種問題は拭いきれていない。キング牧師は演説で、人種差別がなくなることを願ったが、その夢はまだ実現していない。

ひとりひとりの価値観が違うところでは、しっかりとした規則・規律が大切になってくる。これがなければ、人をまとめあげることができない。しかし、これとは対照的に、アメリカは「好意に基づく行動は正義」だという思い込みをしている。この考え方は、価値観の違いがあることを無視し・聴く耳をもっていない、ということになるから、危険な考え方である。もっと他人の意見を聴く耳を持たなければならない。

・第2章では、人種問題と、規則について述べられている。

2. 『9・11 ジェネレーション』第2章のキーワード

人種問題…この章をとおして、人種問題が大きく取り上げられている。

排他性…排他性が差別や偏見につながる、と述べられている。

偏見・差別・逆差別・AA…人種問題の具体的な言葉として用いられているが、更に詳しいことは書かれていない。どういったことが差別・偏見だと問題視されているのか、といった、更に具体的なことが書かれていない。

多様性…アメリカを形容するには欠かせない言葉。しかし、実際はすべてが認められているわけではない。

超大国…人種が多い国＝超大国か。他の要素もあるはず。

3. 『9・11 ジェネレーション』第2章を読んで

①人種問題

- ・ この章では、主に人種問題、すなわち人種の違いによる差別・偏見の問題が取り上げられている。

…9・11 テロから少し離れ、アメリカの実状が述べられている。

- ・ 「逆差別」「AA」の問題…この本を読むまで知らなかった問題なのでは？
- ・ 「逆差別」「AA」←どちらもアメリカ人らしい、人種問題への対処の仕方…差別問題を、ある意味ポジティブな方向へ変換しようとしているところなどは、いかにもアメリカ人らしい考え方。しかし、「AA」は、すべてがプラスの方向に向いているとは限らないようであるから、この「AA」によって、人種差別が払拭し切れているとはいえないようだ。
- ・ 筆者から見た人種問題の実状、差別・偏見に対する意見が書かれていなかった。
- ・ 人種問題がなくなればさらに「超大国」に近づくか。逆に人種問題があっても「超大国」となれるか。

②規則・規律

- ・ この章ではもうひとつ、規則・規律について触れられている。
- ・ 価値観の違う人どうしが集まっていればいるほど、組織が大きくなればなるほど、しっかりした規則が大事。

→アメリカのような国にとっても当てはまっている。

国際舞台でも同じなのでは？

規則に従うことが大切。

- ・ 今回の9・11に対するアメリカの行動はどうなのか。
…国際的なルールに逆らったの行動・イラクへの攻撃。国際的な規則はだれが中心になって決めたのか。アメリカが中心ではなかったのか。

4. 参考文献

岡崎玲子『9・11 ジェネレーション』、集英社新書、2004年